

平成28年度 第1回 白山市環境審議会記録

日 時 平成28年8月26日（金）午前10時30分～午前11時26分

場 所 市民交流センター 4階 研修室A B

出席委員 中里委員（会長）

伊川委員（副会長）※代理出席 中村生活環境課長

山下委員 中出委員 清水委員 出藏委員 湊委員

※欠席 北野委員 森委員 高島委員

事務局 広野市民生活部長 三谷環境課長 北補佐 中出主幹

山本専門員 四田係長

10：30 開 会

10：32 市長あいさつ

10：33 諮 問

地下水の採取について

10：35 部長あいさつ

10：38 会長あいさつ

10：40 議 件

（1）地下水の採取について

（2）地方公共団体と連携したCO₂排出削減促進事業について

（3）平成28年度白山市の環境について

（4）その他

11：26 閉 会

11：30 答 申（市長応接室）

議件1（10：40～11：08）

○事務局 【説明】地下水の採取について（別紙資料1）

●委員

資料のBの井戸が涸れたのでCの井戸を掘って汲み上げるとのことだが、美川地域全域で井戸水位が下がっている。

Bが涸れた原因に、井戸水位の低下があるのでは。

この状態でCを汲み上げて、問題発生の可能性はないか。

また、工業用といわれるが、染色として使用後の汚水の問題はないのか。

●会長

工業用水の処理は。

○事務局

染色で使用後の工業用廃水は、産廃施設で処理後排水されている。
市でも会社でも、廃水の水質検査を定期的に行っており、今のところ心配はない。

●委員

条例の中で、規模が基準を満たしているのか、問題がないのか。
許可をする、しないには関係ないが、美川地区における一般家庭使用の地下水位について現状に問題はないか。

○事務局

2014～2015年の間で、湊地区の観測井戸で80cmほど地下水位が下がっているが、ある程度回復した。

1m下がっても、危機的な状況ではない。

一般家庭で、ポンプを使って深井戸を使っているところは、問題ない。

今、平加地区の自噴水がとまっているが、同様に昨年5.6月に出なくなったが、12月に、ある程度回復した。

自噴水について、以前は、圧力がかかっていた、よく水が出ていたが、全体の貯水量としては問題ない。業者に観測を委託し、動向を把握している。

●委員

許可基準との適合の関係で、規則の第3条の項目で、1号と3号については、配布された資料で適合しているのがわかるが、2号と4号の関係はどうか。

○事務局

距離要件で、一つ引っかかるが、美川町時代から既存施設については、井戸の廃止の際、新規を認めている。

もともと1号で、A、Bとも昭和50年に設置され約40年経過しており、砂の混入がある状態。

Bについては、ストレーナーの破損の可能性がある、大きく井戸が崩壊するおそれがあることから、使用継続できない。水位も23%に下がったので廃止したい。

●委員

Bを廃止して、Cを掘るということだが、これまでと汲上量はどうか。

○事務局

これまでと同等と考えている。

●委員

Aは、何のために使われているのか。

○事務局

主力はBで、Aは、ほとんど使っていない。そこでCを主力にしたいということだ。

○事務局

現状はAを代替として使っていて、Cを新設するということだ。

Cを新設しても日量8,000tを超えることはない。

●会長

Bは日量2,880t、Aの揚水量はどうか。

○事務局

日量2,880tで同じ

●会長

一つの井戸で、日量5,000tを超えていない。

全体でも日量8,000tを超えていないということで基準を満たしているということか。

○事務局

そうだ。

●委員

Cの位置は、海側の反対側ということか。

○事務局

そうだ。

●委員

Cの位置から、塩水が入りにくいとして選んだと思うが、汲み上げた後の管理や地盤変化等のフォローはしているか。

○事務局

すべての箇所について、地盤沈下の計測はしていない。

井戸の塩水化については、年3回実施している。

塩水化の傾向があれば、地盤沈下の恐れもあるので今後も警戒していきたい。

●委員

美川に住んでいて、井戸が涸れて不便だ。

山あいのところが土砂で埋まったことで、地下水がしみこみにくくなったためか。

地球温暖化も影響しているか。

○事務局

原因の一つと思われるが、それのみが原因なのか不明。

地球温暖化によっても、水も蒸発している。

降水量の減少も考えられる。

●委員

3年前まで豊富に水が湧いていたのが、いま涸れた。

浅井戸だけの問題ではないと思う。

何十年前と状況が変わっている中で、地下水として入ってくる水と出ていく水とのバランスはどうか。

現在の状況で、何十年前からの条例の基準に、合致しているから認めるというのは違うのでは。

○事務局

深井戸と浅井戸との話がでたが、深井戸に関しては、地下水位を計測して、県立大学で分析を依頼している。

水質検査によって、河川から浅井戸に流れる水と、白山から雪解け水が100年ほどかけて流れて浸透してくる水との判断ができるとのこと。

現状について石川県立大学に研究していただき、結果により市として地下水採取について需要できる量と規制する量を明らかにすることが必要と考えている。

●委員

了解した。

●委員

石川県立大の研究結果は、いつ出るのか。

○事務局

今年度の成果は今年度。今後も必要なら延長したいと考えている。

●委員

今は、条例の中で、許可しない根拠がないということか。

他の委員も言われたが、条例の基準を、いつまでも同じというのは、現状に合わない

時もあると思う。

条例の見直しについて、今後考えていくということによいか。

○事務局

そうである。

●会長

今回の申請は、既存のものを廃止して、それに代わるものとしての井戸設置ということと、条例の基準を満たしているので、株式会社シコーの地下水採取については、申請のとおり許可することとして答申することとしたい。

条例の見直し等については、今後事務局で検討していただきたい。

議件 2 (11 : 09~11 : 11)

○事務局

【説明】地方公共団体と連携したCO₂排出削減促進事業について(別紙資料2)

【質疑なし】

議件 3 (11 : 12~11 : 18)

○事務局

【説明】平成28年度白山市の環境について(別紙資料3)

一部説明

2 ページ 環境審議会について

4 ページ 再生可能エネルギーの補助について

7 ページ 廃棄物集積所設置補助事業について

8 ページ 美しいまちづくりの推進について

目次 22~26 の 25 年は 26 年の誤り 事業内容は正しい。

●委員

4 ページの再生可能エネルギー補助金額について、風力や太陽熱は一律〇万円となっているが、木質バイオマスは最大8万円となっている。 最大と一律の表現の違いは。

○事務局

ほぼ同じ意味合いだ。

木質バイオマス機器の設置費用は、大概80万~100万円と高額なので、検討した

結果1割程度の補助として、実際は一律8万円の補助となっている。

太陽光については、設置費用に対する補助率は低いですが、件数がかなり多いので、予算上最大5万円となっている。

●委員

自宅に薪ストーブを15年くらい前に、煙突も含めて100万円ほど設置にかかった。外側は半永久的だが、内側は15年もたつと壊れてくる。捨てればゴミとなるが、直せば使えるのではと考える人がほかにもいると思う。修繕に対する補助は、考えられないか。

○事務局

今後、専門業者に内側のみの交換が可能か確認の上、補助について可能か不可能か検討したいが、ここでは今、返事はできない。

議件4 (11:18~11:26)

○事務局 答申案の案内

その他

視察について、今年度も10月中旬から11月上旬に考えている。半日で2~3か所を案内予定。意見があれば、事務局まで連絡欲しい。

●会長

先般視察した直海谷小水力発電所は、その後順調に発電しているか。

○事務局

完成し、順調に稼働している。

●会長

その他に、小水力発電施設の増設の動きはあるか。

○事務局

今のところ特になし。

●委員

今後の環境審議会の開催予定は。計画の見直しや、案件があるか。

●会長

今後の日程や計画は。

○事務局

昨年は、環境基本計画や一般廃棄物処理基本計画の策定があり、数回開催したが、今年は予定されている環境審議会に諮らなければならない案件は、今のところない。

●会長

ゴミ処理の有料化について、白山市はどうか。

○事務局

小松市が10月から開始、金沢市は、市民説明後に有料化を考えていることから、白山市も有料化に向けて動き始めないといけないと思うが、現在、野々市市と広域事務組合でゴミ処理中なので、野々市市と検討を進めていかなければならないと思っている。

閉会（11：26）

●会長

これで議件は終了となります。

事務局より連絡事項はないでしょうか。（特になし）

では、これもちまして第1回環境審議会を終了します。お疲れ様でした。

—以上—